

平和記念だより

◆編集・発行：高松市 人権啓発課 高松市平和記念館
◆連絡先：高松市松島町一丁目15番1号
たかまつミライエ5階
TEL:087-833-2211 FAX:087-833-2244



被爆者による体験講演会「原爆で家族を失って」

平成30年12月6日、高松第一学園で、長崎平和推進協会継承部会員 奥村 アヤ子 さん（被爆当時8歳 城山（しろやま）国民学校3年生）を講演者にお招きして、被爆者による体験講演会「原爆で家族を失って」（共催：高松市・長崎市・公益財団法人長崎平和推進協会）を開催し、同学園の5年生から9年生及び保護者約600人が集まりました。



奥村 アヤ子 さん

奥村さんは、爆心地に近い城山町（爆心地より500m）で被爆しました。8人いた家族も被爆し、母は自宅で2歳の弟をかばうように家の下敷きとなり弟とともに死亡、父は山の中腹で死亡しました。姉も黒焦げとなり死亡、妹も動かすことのできない重傷で後に死亡し、兄は行方不明となりました。

奥村さんは、ひどい火傷をした4歳の弟と共に、知らない遠くの親戚に預けられましたが、弟は苦しんだ末に、2か月後に死亡し、8人いた家族は皆いなくなって、一人ぼっちになりました。

「原爆についてはもう考えたくない。逃げたい。」という思いから被爆体験を胸の内に隠し続けてきましたが、「次代を担う子どもたちには、このような悲しさと苦しさを与えてはならない。」

との思いから、核兵器廃絶を願い訴えておられます。平成21年8月9日の平和祈念式典では、被爆者の代表として「平和への誓い」を読み上げられました。



奥村さんは、「私の人生を変えた

のは原爆です。長崎を最後の被爆地にするのが私の願いです。どんなことがあっても、核兵器を使ってはいけません。」と訴えていました。

講演を聞いた児童は「体験された奥村さんは本当に怖かったんだろうなと思いました。命や今の平和を大切にしてほしいという訴えが心に残りました。」と話していました。

収蔵品の虫干し作業

平和記念館では、毎年1回、空気が乾燥する11月から12月にかけて、皆さまから寄贈していただいた戦争遺品などの収蔵品の虫干し作業を行っています。

収蔵品を湿気やかび、虫の害から守るため、もんぺや防空頭巾、軍服などの衣類、靴などの革製品を収蔵ケースから取り出して、一つずつ日光に当て、風を通し、防虫剤とともに再び収蔵ケースに収納するという作業です。

虫干しをする収蔵品の量は、毎年増えており、この虫干し作業を通して、寄贈された方々の平和への熱い思いを改めて実感します。このような貴重な資料を、今後も大切に保管して、後世に伝え、平和意識の啓発のために役立てていきたいと思ひます。

引き続き、貴重な戦争遺品などの寄贈をお願いいたします。



平和映画上映会の開催

平和記念館では、昨年11月から、次のとおり平和映画上映会を行っています。上映する作品は、毎月、変わります。お子様も親しみやすいアニメ作品の上映も予定しており、平和記念館 映像学習室の大画面で、迫力のある映像をご覧ください。

ぜひ、この機会にご来館ください。

- とき** 開館日の土・日・祝日
1回目：午前11時～
2回目：午後2時～

ところ 高松市平和記念館 映像学習室

※ 上映作品や上映時間などは変更になる場合があります。予めご了承ください。

入場無料

1月
あした元気になれ!

2月
お星さまのレール

平和映画上映会

とき 開館日の土・日・祝日
1回目：午前11時～、2回目：午後2時～

ところ 5F 高松市平和記念館 映像学習室

▼今後の行事予定▼



高松市戦争遺品等収蔵品巡回展

期 間 平成31年2月20日(水)～27日(水)

(土・日は閉庁のため、ご覧になれません。)

場 所 塩江支所1階ホール(都合により、場所が変更になりました。)

内 容 高松空襲の写真パネル、寄贈された戦争遺品を展示

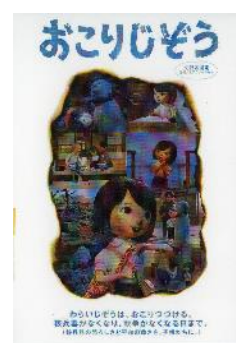


収蔵資料の貸出しについて

平和記念館では、平和意識の啓発に役立てていただくため、パネルや実物資料、DVDなどの収蔵資料の貸出しを行っています。昨年度は、個人、団体、学校から合計で31件、133点の貸出しがありました。

また、平成25年度から、高松空襲と戦時中の生活について学ぶことのできるパワーポイントデータの貸し出しも行っております。

地域や学校での平和学習に、平和記念館の収蔵資料をぜひご活用ください。



実物資料貸出セット内容



- 焼夷弾
- 防空頭巾
- ゲートル(布製)
- 水筒
- モンペ
- *衣料切符
- *家庭用菓子購入通帳
- *招集令状
- *罹災証明書
- *防空必勝の誓

*はレプリカ

収蔵品紹介 60 婦人之友

提供者 多田 義子 様

「婦人之友」は株式会社婦人之友社が発行している月刊誌です。1903年（明治36年）に「婦人之友」の前身「家庭之友」が創刊され、1908年（明治41年）に第3種郵便物の認可を受け、現在も引き続き発行されています。現在、「婦人之友」の雑誌HPには、「母から娘へ、3代、4代にわたって読み継がれてきた女性誌の草分け」、「生活を愛する人とともに116年」の文言があります。

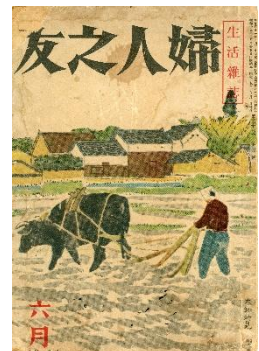
今回、寄贈いただいた「婦人之友」は、昭和16年6月号を含め戦時中のものが5冊、戦後のものが4冊の合計9冊です。その中の昭和18年8月号には、目次に「娘の決戦生活24時間」や「決戦体制と学徒動員」などの文言があります。

また、昭和19年2月号では、「子供を手塩にかけて育てるとは」という題で、「婦人之友」の創刊者で東京の自由学園の創立者でもある、羽仁もと子（はにもとこ）さんの論説が掲載されています。

この中で、羽仁さんは「子供をよく教育するとはよく生活させることだ。」と述べられており、今から74年前の雑誌の中にも、家庭教育の大切さが書かれています。雑誌のほとんどの文章の漢字には、すべてふりがなが付けられ、誰もが読めるように工夫されています。じっくり読み解いていくことで、先人達の知恵や考えがよく分かる貴重な資料です。



現在の婦人之友、平成30年6月号



戦時中の婦人之友、左から昭和16年6月号、昭和18年8月号、昭和19年6月号

編集メモ

昨年11月、東京の昭和館と平和祈念展示資料館が主催し、市民交流プラザIKŌDE 瓦町8階で、「戦中戦後のくらし香川展」「平和祈念展 in 高松」が同時開催されました。戦中・戦後の厳しい時代を生き抜いた人々のくらしや思いが、県内各地から集められた実物資料や写真で紹介されたほか、シベリア抑留者や満州からの引揚者についての資料も展示されました。会場には、遺品を寄贈した遺族の姿も見られ、「戦争は絶対イヤだ。」という気持ちが若い人々に伝わってほしいと願っておられました。



「国の内外、天地とも平和が達成される。」という願いが込められた「平成」の時代も、本年4月末で終わろうとしています。来たる新しい時代も、平和記念館をどうかよろしくお願ひ申し上げます。

高松市平和記念館 開館時間：9時～17時 休館日：毎週火曜日 入館料：無料

▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>